2023年産　水稲栽培のしおり

香川県農業協同組合中央地区営農センター（国分寺用）
香川県中讃農業改良普及センター（監修）

品質食味向上を図り、安全で安心な売れる米を作りましょう

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧下さい。

○ 環境への配慮

①稲わら、麦わら等は焼かずにすき込み、堆きゅう肥等の施用により土づくりに努めましょう。
②農薬散布の際は、周辺環境に被害を及ぼすことがないよう飛散防止対策を講じましょう。

○ 品質・食味の向上

①近年、平均気温が上昇していますので、播種、田植時期は生育管理の目安に準じて行いましょう。
②地力に応じた施肥に努め、特に穂肥は草姿、葉色、品種特性に合わせた適期、適量の施肥を行いましょう。
③生育期間を通じて間断灌水を行い、適正な水管理に努めましょう。
④必須防除の徹底と病害虫の発生状況に応じて確認防除を実施しましょう。
⑤収穫前には異品種の混入を回避するため、コンバイン、乾燥機等の清掃を徹底しましょう。
⑥品質・食味を落とさないよう籾黄変率85%程度の時に収穫し、収穫後３時間以内に乾燥作業を行いましょう。

○ JA香川米への取組み

消費者から信頼され、売れる米づくりのため、下記の要件を満たしたJA香川米の生産に取組みましょう。

①銘柄が確認された種子（毎年、種子更新100%）により生産・出荷されたお米
②栽培基準が守られている事が栽培履歴書により確認されたお米
（収穫15日前までに各支店・ふれあいセンターへ栽培履歴書を提出して下さい）
③JA香川県で農産物検査を受けたお米

※「おいでまい」は、県公募と綾川町推進地域を対象として、栽培しおりは別葉とします。
※「あきさかり」の栽培しおりは別葉とします。

1.生育・管理の目安（品種選定は、別紙「香川県水稲主要品種の特性と作付方向」を参考としましょう。）

地域名	品種名	作型	播種	田植え	初期除草剤散布（田植～７日後）	間断灌水開始（田植15日後）	中干し期間（田植25日後頃～出穂25日前頃）	穂肥施用（出穂18･16日前）	湛水開始（出穂15日前）	本田防除１回目（いずれか）：ゴウケツモンスター粒剤（出穂20～15日前迄）	本田防除１回目（いずれか）：ダブルカットパリダフロアブル（出穂３日前～出穂直前）スタークル顆粒水溶剤（混合散布）	出穂期	本田防除２回目（スタークル粒剤）（出穂10～20日後）	間断灌水開始（出穂後15日）	落水期（収穫７日前）	成熟期
綾歌南部	コシヒカリ	早期	4/ 6	5/ 5	5/ 5～5/12	5/20	6/ 4～6/28	7/ 7	7/ 8	7/ 3～7/ 8	7/20～7/22	7/23	8/ 2～8/12	8/ 7	8/17	8/24
			4/16	5/15	5/15～5/22	5/30	6/14～7/ 5	7/13	7/14	7/ 9～7/14	7/26～7/28	7/29	8/ 8～8/18	8/13	8/23	8/30
		短期	5/ 6	5/30	5/30～6/ 6	6/14	6/26～7/16	7/22	7/23	7/18～7/23	8/ 4～8/ 6	8/ 7	8/17～8/27	8/22	9/ 3	9/10
			5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	7/10～7/24	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/ 4	8/30	9/14	9/21
	ヒノヒカリ		6/ 1	6/20	6/20～6/27	7/ 5	中干し 7/15～7/28	8/ 9	8/12	8/ 7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/ 6～9/16	9/12	9/30	10/ 7
	クレナイモチ		5/26	6/15	6/15～6/22	6/30	中干し 7/10～7/29	8/10	8/13	8/ 8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/ 7～9/17	9/12	10/ 5	10/12
坂出（国分寺）	コシヒカリ	短期	6/ 1	6/20	6/20～6/27	7/ 5	7/15～7/21	7/30	7/31	7/25～7/30	8/12～8/14	8/15	8/25～9/ 4	8/30	9/13	9/20
	ヒノヒカリ		6/ 6	6/25	6/25～7/ 2	7/10	中干し 7/20～8/ 4	8/ 9	8/12	8/ 7～8/12	8/24～8/26	8/27	9/ 6～9/16	9/12	9/30	10/ 7
	クレナイモチ		5/29	6/18	6/18～6/25	7/ 3	中干し 7/13～8/ 3	8/10	8/13	8/ 8～8/13	8/25～8/27	8/28	9/ 7～9/17	9/12	10/ 5	10/12
水の必要度／水の深さ			◎	◎	○	△		○	◎	◎ 出穂15日前～出穂後15日は必ず湛水する。		◎	◎	○ 落水は収穫作業に支障のない時期まで遅らせる。	○	×
品種名及び作業日 ※実際の作業日を記入してください。			月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日	月 日 / 月 日

※中干しの開始及び終了時期、期間を守りましょう。（亀裂の程度　中干しは10ミリまで）また、強い中干しは収量・品質を低下させますので注意しましょう。

2.施肥基準

1）基肥＋穂肥の施肥基準

コシヒカリ（早期栽培　5月15日までの田植）　kg/10a

肥料名	全量	基肥	穂肥（出穂16日前）	成分量
コシツータッチ	52	32	20	N 5.2 P 5.2 K 5.2

コシヒカリ（短期栽培　5月16日以降の田植）　kg/10a

肥料名	全量	基肥	穂肥（出穂16日前）	成分量
コシツータッチ	44	24	20	N 4.4 P 4.4 K 4.4

ヒノヒカリ　kg/10a

肥料名	全量	基肥	穂肥（出穂18日前）	成分量
スーパーブレンドLP40	53	28	25	N7.4 P7.4 K7.4

2）基肥一発の施肥基準

コシヒカリ（早期栽培　5月15日までの田植）　kg/10a

肥料名	全量(基肥)	成分量
コシ一発J	45	N 4.5 P 4.5 K 4.5

コシヒカリ（短期栽培　5月16日以降の田植）　kg/10a

	肥料名	全量(基肥)	成分量
いずれか	コシ一発J	40	N4.0 4.0※ P4.0 4.0※ K4.0 4.0※
	Jコート777	24 ※	

ヒノヒカリ　kg/10a

	肥料名	全量(基肥)	成分量
いずれか	さぬきの米一発(J)	35	N7.0 7.0※ P4.2 3.5※ K4.2 4.2※
	中生一発(J)	35 ※	

3）土壌改良資材

kg/10a

資材名	全量(基肥)
ユーキ鉄ケイカル	100
苦土一番	40
けい酸加里	30～40

本田施肥上の注意事項

①手振りの場合は、基肥を１割増肥する。
②基肥一発施肥は基肥のみの施用になるので、散布ムラのないよう注意する。また、穂肥は施用しない。
③基肥は地力、前作物の状態によって、穂肥は生育や気象状況によって、加減して過剰施肥を避ける。
④全品種とも、土づくりのため、荒起こし時にユーキ鉄ケイカルまたは苦土一番を施用する。
⑤苦土一番、けい酸加里の施用時期は、基肥、追肥（出穂30～40日前）いずれの施用でも良い。
※水田では、肥料成分溶出後の被膜殻が浮上することがありますので、被膜殻を圃場外へ流出させないように注意して下さい。

3.雑草防除基準

区分	使用時期（推奨）		対象雑草名	除草剤名	使用基準（登録内容）：10a当り使用量	使用基準（登録内容）：使用時期	使用回数	注意事項	品種及び使用月日
初期除草剤	いずれか	移植直後～７日	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ アオミドロ 藻類 による表層剥離	カチボシL ジャンボ	30ｇ×10個（300ｇ）	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回	①散布後３～４日は水深３～５cmを保ち、１週間は落水やかけ流しをしない。 ②藻や浮草が発生している水田では、拡散効果が低下し、薬害や効果不良のおそれがあるので、使用しない。	月 日 / 月 日
		移植直後～９日		ジェイソウル フロアブル	500ml	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回		
		移植時又は移植直後～９日		キクトモ １キロ粒剤	1 kg	移植時又は 移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1回	①移植時処理は、田植機に専用散布機を装着した場合に限る。 ②湛水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ③藻類が繁茂した後では効果が劣るので、藻類の発生前～発生始めまでに散布する	
中期除草剤	移植後７日～ノビエ３葉期まで		ノビエ キシュウスズメノヒエ アゼガヤ	クリンチャー １キロ粒剤	1 kg	移植後７日～ノビエ４葉期 ただし、収穫30日前まで	2回以内	①初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ②散布後３～４日は湛水状態を保ち、１週間は落水やかけ流しをしない。 ③クリンチャーバスME液剤とあわせて３回以内の使用とする。	
	移植後15日～ノビエ４葉期まで		ノビエ	ヒエクリーン １キロ粒剤	1 kg	移植後15日～ノビエ４葉期まで ただし、収穫45日前まで	1回	①初期除草剤散布後、ノビエ等が発生した場合に使用する。 ②湛水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ③散布後３～４日は湛水状態を保ち、１週間は落水やかけ流しをしない。	
	移植後14日～ノビエ3.5葉期まで		マツバイ ホタルイ クログワイ ミズガヤツリ ウリカワ	セカンドショット SジャンボMX	25ｇ×20個（500ｇ）	移植後14日～ノビエ 3.5葉期 ただし、収穫45日前まで	1回	①湛水状態で10ａ／20個を均一に投げ込む。 ②散布後湛水状態で７日間落水、かけ流しはしない。 ③藻や稲ワラ等残渣は拡散を妨げ、効果不足の原因となります。	
	移植後20日～ノビエ４葉期まで（落水後処理）		水田一年生雑草 マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ オモダカ キシュウスズメノヒエ	クリンチャー バスME液剤	1000ml	移植後15日～ノビエ５葉期 ただし、収穫50日前まで	2回以内	①水７０～１００ℓに溶かして使用する。 ②落水してから散布し、その後３日間は入水しない。 ③クリンチャー１キロ粒剤とあわせて３回以内の使用とする。 ④バサグラン粒剤とあわせて２回以内の使用とする。	
	移植後20日～30日（落水後処理）		水田一年生雑草（イネ科除く） ホタルイ、マツバイ ウリカワ ミズガヤツリ オモダカ	バサグラン粒剤	3～4 kg	移植後15日～55日 ただし、収穫60日前まで	1回	①落水又はごく浅く湛水して手まき又は散粒機等で均一に散布する。 ②散布後少なくとも３日間（浅水処理は５日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しをしない。 ③クリンチャーバスME液剤とあわせて２回以内の使用とする。	
	発生始期～盛期		ウキクサ類 藻類	モゲトン粒剤	2～3 kg	発生始期～盛期 ただし、収穫45日前まで	3回以内	①散布後少なくとも３～４日間はそのままの湛水状態を保ち、１週間は落水やかけ流しをしない。 ②水稲が水没するような極端な深水で使用すると薬害を生ずることがあるのでさける。	

◆倒伏軽減剤

使用時期	農薬名	使用基準（登録内容）：10ａ当り使用量	使用基準（登録内容）：使用時期	使用基準（登録内容）：回数	注意事項	品種及び使用月日
出穂２５～１０日前	ロミカ粒剤	２～３kg	出穂２５～１０日前	１回	①湛水処理とし散布量を厳守し均一に散布する。 ②当剤を使用した水田の土壌を野菜類の育苗用床土にしない。	月 日 / 月 日

4.病害虫防除基準

1）必須防除

種子消毒

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準（登録内容）：消毒時間	希釈倍数	使用時期	回数	注意事項	品種及び使用月日
浸種前	ばか苗病、いもち病、もみ枯細菌病、褐条病、ごま葉枯病	テクリードCフロアブル	24時間	200倍（水10ℓに50ml）	浸種前	1回	①乾燥籾と同量～２倍量の薬液に24時間浸漬する。 ②消毒後は種子を水洗いせずに浸種する。 ③消毒後の薬液は用水などに流さない。	月 日 / 月 日
	心枯線虫病	スミチオン乳剤		1000倍（水10ℓに10ml）	播種前	1回		

育苗期の防除

対象病害虫名		農薬名	使用基準（登録内容）：希釈倍数	1箱当り使用量	使用時期	回数	注意事項	品種及び使用月日
苗立枯病	ピシウム菌 フザリウム菌	タチガレエースM液剤	500～1000倍（水10ℓに20～10ml）	希釈液を500ml灌注	播種時又は発芽後	1回	①播種量の多い条件では苗が伸びすぎることがある。 ②発芽後に使用する場合は1000倍希釈液を１箱当り500ml灌注する。	月 日 / 月 日
	トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾープス菌	ダコレート水和剤	400～600倍（水10ℓに25～16.6ｇ）	希釈液を500ml灌注	播種時～緑化期	2回以内	①播種14日後までに使用する。 ②タチガレエースM液剤、同粉剤を使用した場合は、必ず使用間隔を３日以上あける。	

育苗箱防除

防除時期	使用地域		対象病害虫名	農薬名	使用基準（登録内容）：１箱当り使用量	使用時期	回数	注意事項	品種及び使用月日
田植当日	いずれか	いもち病多発地域	いもち病、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	Dr.オリゼスタークル箱粒剤	５０ｇ	緑化期～移植当日	1回	①老化苗、軟弱徒長苗、茎葉がぬれているときは薬害のおそれがあるので使用しない。 ②茎葉に付着した薬剤は、払い落として移植する。 ③移植後は直ちに入水し株元の土が露出しないようにする。	月 日 / 月 日
		中山間～平坦地	いもち病、紋枯病 ウンカ類　コブノメイガ ツマグロヨコバイ	ビルダーフェルテラチェスGT粒剤	５０ｇ				
		平坦地～海沿い	いもち病、紋枯病 ウンカ類　コブノメイガ イネツトムシ	エバーゴルプラス箱粒剤	５０ｇ	播種時～移植当日			

※「水稲育苗のしおり」を参考に施用する。

本田防除

防除時期			対象病害虫名	農薬名	使用基準（登録内容）：10ａ当り使用量	使用時期	回数	注意事項	品種及び使用月日
防除一回目	いずれか	出穂20～15日前	いもち病、紋枯病 ウンカ類、カメムシ類 ツマグロヨコバイ	ゴウケツモンスター粒剤	3 kg	収穫45日前まで	1回	①３cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後１週間は落水やかけ流しをしない。	月 日 / 月 日
		出穂3日前～直前	いもち病、紋枯病	ダブルカットパリダフロアブル※	1000倍 60～200ℓ	穂揃期まで	2回以内	①ていねいに散布し隣接は場に飛散しないよう注意する。	
防除二回目	いずれか	出穂後10～20日	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	3 kg	収穫７日前まで	3回以内	①粒剤は３cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後１週間は落水やかけ流しをしない。 ②水溶剤は、ていねいに散布し隣接は場へ飛散しないよう注意する。 ③ゴウケツモンスター粒剤を使用したは場は、粒剤・水溶液あわせて２回以内の使用回数とする。 ④斑点米の発生を防ぐため、必須防除とする。	
				スタークル顆粒水溶剤	2000倍 60～150ℓ				
				スタークル豆つぶ	250g				

※出穂前にダブルカットパリダフロアブルとスタークル顆粒水溶剤の混用散布を行う。

2）確認防除

防除時期	対象病害虫名	農薬名	使用基準（登録内容）：10ａ当り使用量	使用時期	回数	注意事項	品種及び使用月日
移植後	スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）	スクミノン	１～４kg	収穫60日前までスクミノンとジャンボたにしくんは、あわせて２回以内の使用とする	２回以内	①移植後、スクミリンゴガイを確認したら直ちに散布する。 ②水口周辺や深水になる場所は被害が多いので、所定の範囲内で多めに散布する。	月 日 / 月 日
		ジャンボたにしくん	１～２kg				
穂ばらみ期～穂揃期	紋枯病 稲こうじ病	モンガリット粒剤	３～４kg	収穫45日前まで	２回以内	①３cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後１週間は落水やかけ流しをしない。	
7月中旬～8月上旬	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネツトムシ コブノメイガ	バダン粒剤４	３～４kg	収穫30日前まで	６回以内	①３cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後１週間は落水やかけ流しをしない。	
葉いもち初発10日前～初発時	いもち病	コラトップ豆つぶ	250g	出穂５日前まで	２回以内	①コラトップ豆つぶは、３cm以上の湛水状態で均一に散布し、散布後１週間は落水やかけ流しをしない。	
初発時		ブラシンフロアブル	1000倍	収穫７日前まで			

※稲こうじ病の液剤処理はブラシンフロアブル1000倍にて行う。

※農薬･除草剤は2022年10月1日現在の登録状況による　　2022年10月作成